

# エー A G 5 だより

## 香港日本人学校グローバルクラスの取り組み —グローバルスタディーズの授業の実際—

AG5運営指導委員・海外子女教育振興財団 教育相談室長 植野美穂

今年の3月、香港日本人学校小学部では、グローバルクラスから初の卒業生を送り出しました。4年生でのスタート時は13名、その後、数名の帰国・編入を経て12名が卒業しました。彼らはグローバルクラスで、英語の授業、算数と理科の英語イメージ授業、グローバルスタディーズ(トピックに合わせて日英言語を使い分ける学習)を通して、英語の運用能力や課題解決力、グローバル市民としての主体性を身につけることができました。このような資質・能力を取得するために、どんな学びを行ってきたのでしょうか。6年生のグローバルスタディーズに焦点を当てて紹介します。



### グローバルクラス初の卒業生

下記の二枚の写真は、今年の卒業生が6年生のグローバルスタディーズで最後に取り組んだ自由研究の発表風景です。

右の写真にはパネルを展示した教室が、左の写真にはブースごとに発表している様子が写っています。

子どもたちはグローバルスタディーズで、世界的な課題について探究することにより、次のような能力や姿勢を身につけることができました。

- ・ 課題解決力(「調査力」「分析力」「討論力」「プレゼンテーション力」など)
- ・ 探究心に満ち、前向きに学ぼうとする姿勢

- ・ 未知のことに対して、学習したことや自分の体験に基づいて自分なりに解決しようとする姿勢
- ・ 自分の主張だけでなく、他人の考えも興味を持って受け入れようとする姿勢

### グローバルスタディーズの学び

グローバルスタディーズでは、一学期に一つのテーマ、三学年を通して八つのテーマ(本誌二〇一八年十二月号「AG5だより」参照)について探究活動を行い、六年生の三学期には自由研究の発表を行います。



自由研究の展示



ブースでの発表

今年の卒業生がそれぞれ、自由研究で選んだテーマを紹介します。

- ・ 延命治療
- ・ ドラッグ(医療用薬物)
- ・ スマートフォンの使い捨て
- ・ マイクロプラスチック
- ・ 死刑制度
- ・ バイオテクノロジーと農業
- ・ 防犯とプライバシー
- ・ フェアトレードと人権
- ・ キャッシュレス決済
- ・ 交通×労働×環境
- ・ AI 人工知能
- ・ エコテロリズム

この自由研究では、実際の生活での課題や問題の中で、自分が探究したいと思うテーマを設定し、そのテーマに関する調査設問(Ines of inquiry)を決め、実際に調査を行い、解決策を提案することが求められます。

グローバルスタディーズを担当した大澤由恵先生は、自由研究の発表までに、子どもたちにどのような働きかけを行ったのでしょうか。

### 自由研究発表の指導の実際

研究テーマは各自異なるものですが、テーマとそのテーマに対する調査設問を作る際には、グループのメンバー間で議論をしっかりと交わす時間を設けました。

また全ての子どもにReport formatを配付し、一、二週間ごとに提出させ、個々の研究の進捗状態を確認しました。授業では、子どもたちがそれぞれ個人作業を行う傍ら、一人ひとりと面談し、子どもたち自ら考えを深めるための質問を投げかけました。

六年生の三学期は、中学受験で帰国する子どもが多いので、授業を継続させるためにオンライン教育プラットフォームであるEdmodoを活用しました。教師の側から、役に立ちそうなウェブサイトを映像をアップしたり、メッセージ機能を用いて個々の子どもからの質問を受けつけたりもしました。また、児童の側からも「○○についてどう思う?」といった質問を投稿してもらい、グローバルクラスの子も同士で意見を交換することができました。

子どものReport formatを見ると、いつどのような調査やインタビューをして、自分の考えを深めていったのか、探究活動のプロセスを読み取ることができそうです。

- Q1 延命治療とは何か。
- Q2 QOLとは何か。
- Q3 なぜ延命治療が善いのか。
- Q4 なぜ患者の意思とは関係なし

に延命治療は行われるのか。そもそも延命治療は誰のためなのか。Q5 どのような意見があるのか。Q6 どうすれば解決できるのか。を研究テーマに対する調査設問としました。

Q5では、日本人学校の六年生や中学生、先生、さらに医師である親戚にインタビューし、患者の家族の立場に立った意見と医師サイドの意見をまとめ、Q6ではこのテーマに対する自分の考えを伝えていきます。

グローバルクラスでは、学年が上がるにつれて「多角的に考え、それを自分で認知することができる子」を目指しています。自由研究発表は、これまでグローバルクラスで過ごす中で身につけた学習者像を体現するよい機会となりました。

### グローバルスタディーズの授業

グローバルスタディーズは、国際バカロレアPYPの「探究の単元」(Unit of Inquiry)を参考に、週三時間行います。社会科学から週一時間抽出しているため、社会科学の単元との結びつきを強く持っています。社会科学以外の教科の指導内容とも関連させながら、教科で身につける知識や技能が活用できる総合的な学習となっています。



話し合いながら発表の準備

グローバルスタディーズには教科書がありません。そのため、大澤先生は授業を組み立てる上で探究に役立ち、子どもたちも興味を持ちそうなデータやトピックを、政府、国際機関、NGOが発信するサイトをはじめ、本、DVD等さまざまなところから集める努力を積み重ねました。六年生で探究するテーマは、一学期は「紛争と平和構築」、二学期は「ガバナンスと人々のくらし」です。

一学期の「紛争と平和構築」は、社会科学前期に学ぶ歴史の内容と大きく関わりますが、後期の学習内容の政治とくらし、世界の国とのつながりにも関係しています。「ガバナンスと人々のくらし」は、社会科学の政

治、法の制定、権利尊重、国際協力や援助といった後期の学習に関連するテーマです。

「紛争と平和構築」では、紛争は国や地域間での武力紛争だけではなく、クラスやコミュニティといった身近にもあることに気づかせます。紛争の原因と結果、その後の影響について分析し、当事者意識を持って紛争解決にあたり、最終的には「紛争は人々と社会にどのような影響を与えるか? 平和構築のために何ができるか?」について自分の意見をもち、学んだことを発信します。

このテーマでも他のテーマと同様に探究サイクル(本誌二〇一八年十二月号「AG5だより」参照)にそって探究活動を進め、PYPが掲げる八つの概念(このテーマでは因果関係、責任、見方、振り返り)について、協働学習を通して理解を深めていきます。

また、校外学習(香港の歴史博物館見学、沖縄修学旅行)での具体的な体験や事物との関わりによる学びで、課題についての理解を深めるほか、「世界一大きな授業」(教育の大切さを考える世界一〇〇カ国で一斉に行われるイベント)に参加し、香港日本人学校グローバルクラスとして「私たちの政策提言」を発信しま

した。

「ガバナンスと人々の暮らし」では、ガバナンス（統治・管理・支配）は大人の世界・政治の世界という意識を持ってしまいがちですが、ガバナンスは家族・クラス・学校といった身近なコミュニケーションにもあり、教育や交通といった分野ごとにも議論されるものです。また、ガバナンスに不公平感、差別が見られると、それは紛争につながります。このテーマでは、政府のさまざまな形態や機能について理解し、ガバナンスと人々の暮らしにはどのようなつながりがあるか、よりよいガバナンスのためにどのように貢献できるかを考え、行動できるようにすることを狙っています。

子どもたちは「ガバメント＝政府」ということは知っていますが、「ガバナンス」という言葉は初めて聞くようで、最初「？」という反応を見せました。このテーマでは、はじめに香港の立法議会に見学に出かけ、そこで立法議会の主な三つの働きが①法をつくること、②予算を承認すること、③政府を監視すること、だと学びました。

校外学習での学びから、授業では「政府を監視するというけれど、立法議会は自分で自分を監視している

の？」「立法議会と政府は何が違うの？」と質問を投げかけ、政府やガバナンスという概念を自分たちで作った探究活動を行いました。

### 卒業生の保護者からのコメント

十二名の卒業生のうち、四名が帰国して希望の中高一貫校等へ、八名が日本人学校中学部へ進学します。卒業生の保護者たちはグローバルクラスでの学びについてどのように思っているのでしょうか。寄せられたコメントを紹介します。

・プレゼンテーションがたくさんあるので、物事を考えたり、リサーチしたり、人に伝えるときにわかりやすく解説したりすることができるとなったと思います。また、香港の立法議会を見学することで、普段考えなかったような香港の立法について考えることができたり知ることができたりしたことはよい経験になったのではないでしょう。

・グローバルクラスに入った当時、英語は決して得意とはいえない子でしたが、生来の積極性と先生方のご指導をもって英語に対して物怖じしない子に成長したと思います。これは得がたい財産ですので、

帰国後も忘れずにいてくれたらと思います。

・グローバルクラスは独立性が高いので、一般のクラスの子どもたちと友達感覚を共有できたかどうか、傍目には若干不安に感じました。たとえば、日本語の科目はほかの一般のクラスと合同にする等も一案かもしれません。

・外国の文化や多様性の問題など、違った方面に関心を持つようになってきましたし、英語への理解度は大きく向上したように思います。セルフマネージメントやスケジューリングの力も身についたように感じています。中学部に進学してからも、ここで培った力を伸ばしていくってほしいです。

### 中学部での取り組みは？

小学部のグローバルスタディーズでは探究活動を通して、物事を大局的に捉える概念を学び、チーム同士のつながりを分析する見方を育ててきました。

中学部では、グローバルクラスの卒業生の受け皿として、今年度は英語の授業の中でグローバルスタディーズを組み入れていきます。年齢が上がるにつれて、概念についての理解も深まるため、今後の中学部での

グローバルスタディーズが期待されます。

### 他校への広がり

前月号「AG5だより」で、AG5運営指導委員会の佐藤郡衛委員長が「二〇一九年度は、香港日本人学校の取り組みはシンガポールやパリの日本人学校に広がっていく予定です」と述べました。香港日本人学校のグローバルクラスでの取り組みを参考に、他の日本人学校がそれぞれの国や地域の特色を生かした探究活動を授業に取り入れ、グローバル型能力を身につけた子どもたちが多くの日本人学校から育っていくことを願っています。



授業風景